

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→**2**ダイナミックな多角的、立体構造：

神の視点、人類史に先立って配備された摂理

→**3**古代ヘブル（イスラエル）史を通して記された正確な人間史：

過去（史実）を学び、現在を見分け、未来を見通す洞察力習得のテキスト

使徒パウロの宣教

その14

コリントでのパウロ

☆ピリピ、テサロニケ、ベレヤ、アテネから、一人でコリントへ

☆ユダヤ人夫婦アクラとプリスキラとの出会い

☆「天幕作り」で生計を立てる

☆パウロ、組織化された宗教から追放され、ユストとともに単立の宣教の働きを開始

→この世の人々、体制、組織からの拒絶は、本物を残すための主のご介入、
主が受け入れられたことのしるし

☆コリントで回心したユダヤ人は三人だけに言及、ほとんどの回心者は異邦人

☆パウロがコリントを去った後、ユダヤ人アポロ、エペソからコリントへ

☆アクラとプリスキラ夫婦、エペソで、神の道をもっと正確にアポロに説明

☆アポロはコリントへ

パウロのコリント教会との関わり

①コリントへの最初の宣教旅行、教会設立

②「前にあなたがたに送った手紙」

③コリント教会からの手紙

④『コリント人への手紙第一』

⑤コリントへの二度目の訪問

⑥「厳しい手紙」、一問題を起こした者を戒める手紙—

⑦テトスから、マケドニヤでパウロ、良い報告を聞く

⑧『コリント人への手紙第二』

マケドニヤからコリントへ

→使徒の働き20：1-3

☆パウロ、マケドニヤを通り、コリントへ

☆三度目のコリント訪問、三ヶ月滞在

紛失した二通の手紙

—混入の可能性—

☆「前にあなたがたに送った手紙」

☆コリント人第二6：14-7：1が紛失した手紙の一部？

☆「厳しい手紙」

☆コリント人第二10-13章が紛失した手紙の一部？

聖書

『コリント人への手紙第一』のテーマ

☆教会内に、異なる、二つの道、一滅びに到る道、救いに到る道— を歩んでいる者たちがいる
☆奥義の管理人に要求される生活姿勢とその報酬

→3章

☆報酬を分ける二通りの土台

1)金・銀・宝石 2)木・草・わら

1)は聖められ、報酬を受け、

2)は何も報酬を受けないが、その人自身はかろうじて救われる

裁きに関する教え

☆裁くな！と教えている聖句

→マタイ7：1-5、ローマ人2：1-3ほか

☆裁きを認めている聖句

→マタイ18：15-17、ヨハネ7：24ほか

聖書の原則

☆神は「裁き^{つかさ}司」であり「支配者」

☆聖書では、支配と裁きを切り離してはおらず、両者は密接な関係で語られている

☆裁きの主要な目的は凝らしめではなく、正しい者を守ること

☆この原則、神が責任を委ねられる「信じる者たち」にも同じように適用される

☆自分の持ち場以外の領域では裁いてはいけない

→ルカ12：13-14

裁くことのできない領域、裁く必要のない領域

☆自分自身知らない自分のこと、他の人の隠れた心の中の思い、動機、価値観等を
裁くことができるのは、神のみ

→コリント人第一4：4

☆神はすべての行いに報酬を与えて下さるので、それまでは、神に代わって人を裁く必要はない

→ローマ人14：12-13

☆信じ、御旨を行う者に非難の裁きは下されない

→ローマ人8：1

裁く責任のある領域

☆自分の管轄下にある者たちに対する責任

→テモテ第一3：4-5

☆教会指導者は、管轄下にある者たちを個人としてではなく、信じる者の群れとして裁く

☆指導者には群れの魂の見張りをし、神に群れの申し開きをする責任がある

→ヘブル人13：7、：17

『コリント人への手紙第一』

1章

：1「召された」：

★パウロの使徒としての権威の源は神

：2「コリントにある神の教会へ」（下線付加）：

★ギリシャ語の「エクレシア」で、集会の意

★『七十人訳聖書(LXX)』では、この同じ用語を「イスラエルの民」に使用

★キリスト者の集まり

聖書

- 「…主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに」：
- * 「御名を呼び求める」ことは、ヘブル語聖書では、神ヤーウェへの言及
→ヨエル書2：32
 - : 3 「…恵みと平安があなたがたの上にありますように」（下線付加）：
*ギリシャ語の挨拶で、ヘブル語では「シャローム（安かれ）」
*キリストは「主」であることに力点
 - : 7 「キリストの現れ」（下線付加）：
*ギリシャ語の「アポカリュプシス」使用
 - : 9 「…私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました」（下線付加）：
*ギリシャ語の「コイノニア」で、コミュニケーションの意
 - : 10 「…仲間割れすることなく、同じ心、同じ判断を…保ってください」（下線付加）：
*キリストの身体、教会の一員を攻撃することによって、キリストを悲しませてはならない
 - : 12-16 「…『私はパウロにつく』『私はアポロに』『私はケバ』に『私はキリストに…』：
*パウロは洗礼を受けた、しかし、例外としてそうした

神の「愚かさ」は究極的な矛盾語法

- : 18 「十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても…私たちには、神の力です」：
*十字架には、人の完全な墮落と神の不変の愛が表された
「ことば」：
*ギリシャ語の「ロゴス」で、メッセージの意
*十字架に顕された相互に排他的な二つのメッセージは「滅び」と「救い」
- : 20 「知者はどこにいるのですか…この世の議論家…この世の知恵…」（下線付加）：
*最初の「この世」は「アイオン」、この時代の意
*二つ目の「この世」は「コスモス」、この秩序ある宇宙の意
「知者」、‘σοφός ソフォ/ボス’：
*「ソフォス」から「知恵の愛」＝哲学‘Φιλοσοφίαフィ/ピロソフィ/ピア’が派生
*キリスト者にとって、聖書に同意するなら、哲学は不要
- : 25 「なぜなら、神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです」：
*究極的な矛盾語法
*パウロはエレミヤ書9：23-24に基づき、教えを展開

神の愚かさ

☆全聖書に見られるテーマ

1. ノアと箱舟
 2. ろばのあごぼねでペリシテ人を打ち負かしたサムソン
→士師記15章
 3. ヨルダン川で七回身体を洗い、癒やされたシリアの将軍ナアマン
→列王記第二5章
 4. 荒野で青銅の蛇を仰いで癒やされた民
→民数記21章
 5. エリコ陥落法
→ヨシュア記6章
 6. ヨナと巨大な魚
→ヨナ書2章
 7. 究極的な愚かさ
—ゴルゴタの「木の十字架」—
- : 26 「兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらんください…」（下線付加）：
*選びは神、神の御目的がある
 - : 27-29 「…神は…無に等しいものを選ばれた…神の御前でだれをも誇らせないため…」：
*キリストの十一人の弟子たちは、身分の低い者たちであった
*例外はユダヤの人、「ユダ」、もう一人の例外はタルソの「サウル」

聖書

- : 30 「…あなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです」 (下線付加) :
 * 謎めいた言い回し
 * 信じる者は、主イエスとの親密な関係にある
 「キリストは私たちにとって、神からの知恵、すなわち、私たちの義、聖さ、贖いと
 なられた」 (NIV) :
 * 「神の知恵」は、1. 義、 2. 聖さ、 3. 贖い
 : 31 「まさしく、『誇る者は主を誇れ』と書いてあるとおりになるためです」 :
 * 私たちすべては謙遜への召しを受けている

2章

- : 1 「…すぐれた知恵を用いて、神のあかしを宣べ伝えることはしませんでした」 :
 * パウロ、アテネで教訓を学んだ
 * 福音宣教は神が人類の救いのためにキリストにおいてしてくださったことを証しすること
 : 2 「…イエス・キリスト、すなわち十字架につけられた方…」 :
 * パウロ、福音の中心的真理を
 「…この福音によって救われる…キリストは…私たちの罪のために死なれた…葬られた…
 三日目によみがえられたこと」と宣言
 → コリント人第一15:1-4
 : 3 「あなたがたといっしょにいたときの私は、弱く、恐れおののいていました」 :
 * パウロは、身体の不調、不快、懲らしめ、苦痛に耐えた
 * 主がパウロを勇気づけられた
 : 5 「…あなたがたの持つ信仰が、人間の知恵に支えられず、神の力にささえられるため…」 :
 * パウロの意図、人の知恵ではなく、神の力によって生み出された信仰を証しすること
 : 7 「…神が私たちの栄光のために、世界の始まる前から、あらかじめ定められたものです」 :
 * 福音は、人の墮落後の結果論ではない
 * 最初から神が定められた
 : 8 「この知恵を、この世の支配者たちは、だれひとりとして悟りませんでした…」 :
 * 神の奥義は、救われていないこの世から隠されている
 : 10 「…御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです」 (下線付加) :
 * 人には理解できないこと
 : 12 「ところで、私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました…」 :
 * キリスト者
 「この世の霊」 :
 * サタン
 : 13 「この賜物について話すには…御霊のことばをもって御霊のことを解くのです」 :
 * パウロの形式、語彙、言い回しはすべて、聖霊がパウロに教えた真理の伝達手段
 : 14 「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません…」 :
 * この世だけしか眼中にない人生には、聖霊のことは愚かで、その人の心に占める場がない
 : 15 「…すべてのことを判断しますが、その人自身はだれによっても判断されません」
 (新改訳2017 → NIVとほぼ同じ) :
 * 御霊を受けていない人には、霊的な人を判断する資格がない
 * 他の人の信仰生活の支配者になってはならない
 : 16 「『だれが主の心を知り、主に助言するのでしょうか。』しかし、私たちはキリストの心を持っています」 (新改訳2017) :
 * 生まれながらの人は、神の心を知らない
 * しかし、キリスト者は御霊によって、キリストの視点から物事を見ることができ
 → イザヤ書40:13